

あすたむらんど徳島 25 周年 利用者アンケート分析結果（要約版）

1. 結論（政策判断の前提）

3,099 件の利用者アンケートの統計分析により、以下の点が科学的に確認された。

1. あすたむらんど徳島（特に子ども科学館）は、教育的効果を有する公共学習拠点として機能している
2. 来館効果は性別・居住地・来館回数にかかわらず安定して認められる
3. 親子間で来館効果が強く相関し、家庭内に学びが波及している
4. 人口減少下でも県人口比利用者数は安定～微増傾向を維持
5. 利用者からは教育・体験・家族交流・公共性の面で高い価値認識が示されている

したがって、リニューアルに際しては、既存の教育的・社会的機能を損なう全面再編ではなく、**機能の維持・深化を基本方針とすることが合理的である。**

2. 利用実態と評価の概要

（1）利用者層

- 20～50 代子育て世代を中心に 10 代～60 代まで幅広く利用
- 性別による偏りなし（ジェンダー公平性）
- 5 回以上来館者が最多
- 県内リピーターが多数、県外利用も一定数あり

→ 単発型観光施設ではなく、**地域定着型公共施設**として機能。

（2）来館による教育効果（肯定的回答 約 70%前後）

- 理科・科学への興味関心の向上
- 授業への好意
- 実験・観察行動の増加
- 星や月の観察行動の増加

特徴：

- 性別差なし（公平な教育機能）
- 来館回数による有意差なし（初回から効果）
- 長期来館者はより強い効果を実感
- 保護者世代で効果実感が特に高い

→ 「学びの入口機能」と「継続深化機能」を併せ持つ。

3. 教育的・社会的機能（重点整理）

本調査から確認された同施設の機能は以下の通り。

① 多面的公共機能

- 教育（理科学習支援）
- 体験・探究
- 家族交流・思い出形成
- 癒し・ウェルビーイング
- 地域の公共学習拠点

→ 単なる集客施設ではなく、**教育インフラ的機能を有する複合公共施設**。

② 家庭内波及効果（重要知見）

親自身の効果実感と子どもへの効果実感の間に強い統計的相関あり。

- 両者とも肯定：約 70%
- 両者否定：約 10%

→ 来館体験が家庭内で共有され、世代間に学びが循環。

これは、施設が物理的空間を超えて**「関係的インフラ」**として機能していることを示す。

③ 人口減少下での安定実績

徳島県人口：約 24 年間で約 17%減少。

しかし、

- 県人口比入園者数：安定～微増傾向
- 子ども科学館・プラネタリウムも安定維持
- 他県同規模科学館と比較しても同等以上

→ 構造的需要が存在。

4. 今後のリニューアルに向けた方向性（政策的示唆）

基本原則

既存の教育的・社会的価値を維持しつつ深化させること。

全面再編型ではなく、**機能強化型リニューアル**が合理的。

検討すべき重点施策

1. 家族来館を軸とした展示・情報設計強化
2. 初回利用者向け導入設計の維持+リピーター向け高度化
3. 中高生層向け探究・キャリア連携強化（効果実感が相対的に弱い層への対応）
4. アウトリーチ活動の拡充（来館困難層への対応）

5. 市民科学・交流拠点機能の強化
 6. 利用者改善要望の迅速な反映
-

5. 政策的意義

本施設は、

- 理科教育への好意向上
- 教育格差是正への寄与
- 生涯学習機会の提供
- SDGs 目標 4「質の高い教育」への貢献

という観点から、**教育政策上の意義が高い公共資産**である。

6. 総括

あすたむらんど徳島は、

- ✓ 科学への興味関心を喚起する教育拠点
- ✓ 家族内に学びを波及させる社会的装置
- ✓ 人口減少下でも安定需要を有する施設

として 25 年間機能してきた。

リニューアルにあたっては、

短期的集客増のみを目的とする再編ではなく、

既に証明された教育的・社会的価値を基盤とした持続的発展戦略を基本とすることが望ましい。